

ひとを育てる活動

現地パートナーとともに支援するピラーン、チボリ、マノボ、ムスリム等、各民族の子どものページです

☆ それぞれのクリスマス ☆

子どもたちへのプレゼントありがとうございました！



左：レイクセブ町ティヌオス地区の1,2年生だけの分校・先住民族学校には、民族衣装のマロンを贈りました。

右：ブラクール校のチボリ、マノボの児童80名は、校庭でゲームなどに興じた後、お母さんたちが用意した特別給食を楽しみました。



CMIP カレッジ奨学生は、事務所で、担当ジョバンニ神父から、ギフトの包みを受け取りました。

SCMSI 校からの写真報告は現時点で未入手です。
関係の皆様には別途報告させていただきます。

チボリ支援の皆さんへの感謝と継続的支援を願って

—SCMSI ガンダム学長からカードが届きました—

高齢等の事情で、昨年1年間にチボリの子ども支援終了の申し出をいただいた会員は6名でした。中には30年以上続けていただいた方もいらっしゃいます。

チボリの伝統文化継承と、自立した青年の育成を建学の精神とするSCMSIが存続する上で、今も私たちの協力への期待は大きいようです。里子のカードに添えて、ガンダム学長からのカードも届きました。

会員減少に対応して、次年度は月額支援額を1万ペソ(2万円強)減額して8万ペソの予定で、すでにその旨SCMSIに伝えて了解をいただきました。現地の自立支援継続のため本年もどうぞよろしくお願いいたします。



Our sincerest gratitude for all your support to the indigenous people
MERRY CHRISTMAS AND A NEW YEAR!!!!
Greetings from:
Maria L. Gandam

ガンダム学長のクリスマス・メッセージ。カードは現地パッションニスト女子修道院製で、ティナラク織端切れを一部に使っています。

初めてのジェネラルサントス

— CMIP 運営の小学校3校 45名の修学旅行 —

CMIPの事務所がある人口55万人のジェネラルサントス市へは、徒歩と車で、ナブル・カマガヤ小からは7時間、アトモロック小からは3時間、ラムアフス小からは2時間かかります。それぞれの村の子どもにとって、重篤な疾病で病院に搬送されるようなことがない限り、訪れる機会がありません。サランガニ湾に面していて、沖合に停泊する大型漁船が望める教会関係の研修所に一泊して、消防署や空港などの施設を見学しました。

私たちが週3回の給食支援や、月100ペソ(約250円)の奨学金で支えてきた子どもたちは、学年末試験を経て3月の卒業式に臨みます。そして、6月からは全員、公立ハイスクールに進学しますが、学校が遠くなり、自宅から通えず親戚に寄留したり、学生アパートを仲間とシェアするケースでは経済的な理由で中退する子どもが増えます。

ハイスクール奨学金対象は、現支援会員数に基づいて、次年度も全体で25名を予定しています。より多くの子どもたちの「学びたい」を支えるため、新規にハイスクール奨学金支援者も募集しています。ご協力よろしく願いいたします。



署員から説明を聞いた後、
消防車の前で記念撮影

カレッジ奨学生報告 — 医学生アンの手紙より —

「自分は本当に医師になりたいのか？ もちろん！ 絶対医師になる！」このように言えるまでには時間が必要でした。医師は見も知らぬ患者を全力で助けなければなりません。会ったこともない私の支援を始めて下さった時の日本の皆さんのように。

医師への道は日々苦難の連続です。神に祈る中で挑戦する力をもらった2016年に感謝しています。そして、新しい年2017年を迎えるにあたり、あらゆる試練を乗り越える準備ができています。皆様もどうぞ楽しいクリスマスと良い年をお迎えください。
(文責：山崎)



奨学金支給条件では留年は1回限り。2年進級時の落第でもうあとながないダバオ医科大学3年のアン(右端)。クリスマス休暇はレイクセブで家族とくつろぎました。

お詫びと訂正：前87号本ページで、カレッジ卒業生アイリーンとJOFPA基金奨学生マリー・グレースの写真が入れ替わっていました。ホームページでは修正済みです。お詫びして訂正させていただきます。